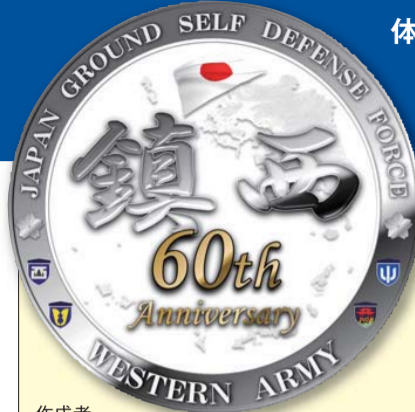


新たな挑戦 そして未来へ

我が国防衛の最前線 九州・沖縄の領土・国民を防衛して60年

陸上自衛隊 西部方面隊

<http://www.mod.go.jp/g sdf/wae/>



体制移行を前に夢と希望を持ちながらも、一人ひとりが前向きにそして勇気と強い信念を持ち、新たな事柄に挑戦し、これを成し遂げ、西部方面隊が勇往邁進し、今後未来へ更なる躍進を誓う。

挑戦

- 「2+1」に対する即応性
常に複数正面・複合事態に即応できる態勢を維持(南西諸島・朝鮮半島への2つの戦略正面・南海トラフ巨大地震等の大規模災害対処)
- 抑止態勢の強化
スピード感を持って南西防衛態勢を強化し、侵略を未然に抑止
- 統合・共同・協同の深化
海空自との統合運用、米軍との日米共同及び地方自治体等の関係機関との協同等による緊密な連携(南西の島嶼防衛の要)

「2+1」に対する対応を具体化

九州・沖縄の防衛・警備

任務

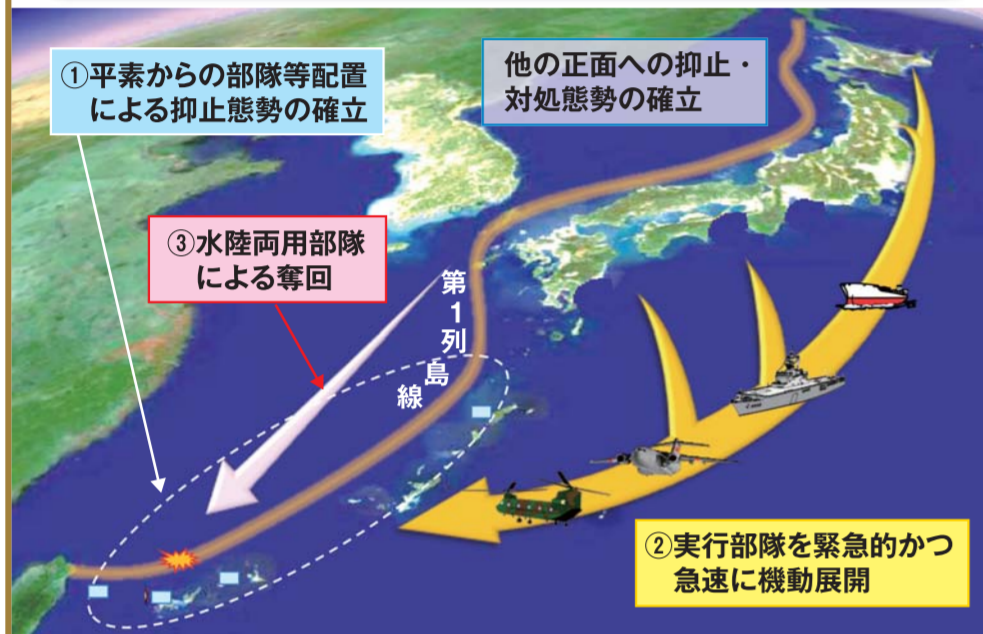
- 災害派遣等
- 国際平和協力活動
- 不発弾処理

地域との“絆”

地域とのふれあひも大切にしている西部方面隊。「西部方面音楽まつり」では、NHK熊本児童合唱団や「くまモン」との混成音楽隊となって来場者を湧かせた。また、鎮西26(海自・空自も参加。参加人数は約16,500名という大規模な演習)に際しては沿道の人々からの声援に勇気と力が湧いてくる。



島嶼部に対する攻撃への対応



西部方面隊 将来態勢(Big3)

- ①南西部隊配置
- ②部隊の近代化改編
- ③水陸機動団(仮称)創設に向けた取り組み

水陸機動団(仮称)とは…

大規模災害を含む島嶼部における各種事態に海上・空中から迅速に機動展開！実効的に対処する態勢の確立。海上から島嶼部に部隊を上陸させるために、海上における機動性や防護性に優れた水陸両用車を整備。



編成

編成	定員	総数
方面総監部	約 30,000名	
第4師団	約 27,000名	
第8師団	約 2,000名	
第15旅団	約 1,000名	
第2高射特科団		
第5施設団		
西部方面混成団		

南海トラフ等

今後30年の間に発生する確率が高いと言われている南海トラフ巨大地震に対しては、防災計画の作成や自衛隊統合防災演習や離島統合防災演習、警察・消防との共同訓練、原子力総合防災訓練等防災演習等を行い、各自自治体や関係機関との連携を強化している。一刻も早く！かけがえない人々のために！



日米共同



国内における米海兵隊との実動訓練「フォレスト・ライト」。相互運用性の向上を図り、日米の協力関係と地域の安全保障環境を強化するため、各々の指揮系統に従って共同作戦を行う訓練。

米国における米海兵隊との実動訓練「アイアン・フィスト」。島嶼部等の防衛を任務の一つとする西部方面隊。島嶼部における作戦に必要な戦術・戦術、米軍との相互連携要領を実行動により訓練するとともに、水陸両用作戦能力の向上を図っている。

防衛・警備

国内における訓練では、島嶼部への着上陸訓練、輸送ヘリからの弾薬特殊投下訓練、輸送艦上での応急処置等様々な状況に対応できるように訓練を積み上げている。また、「鎮西」演習では、西部方面の演習場や自衛隊施設だけでなく、管内の米軍施設等も使い、各種事態における対処能力向上のため広域な演習を行っている。



災害派遣等

台風などで被害が出た時に人命救助、人員・物資を輸送。また、林野火災の消火活動や鳥インフルエンザ発生時にも対処する。平成26年度に行った緊急患者空輸は194件、不発弾処理は635件を数える。



PKO

平成25年6月14日～12月16日には、南スーダンへ派遣。派遣施設隊及び現地調整所で約350名が活動した。道路整備や側溝整備・宿営地測量、輸送・補給・各種調整を行い、現地の人々との「絆」も深めて来た。



部隊の近代化改編

機動師団へ。各種の事態に即応し、実行的かつ機動的に対応し得る部隊の近代化改編



南西地域等に迅速かつ段階的に機動展開し、実効的に抑止・対処し得る態勢の確立

- 機動戦闘車を装備した即応機動連隊(仮称)の新編等により、高い機動性を保持
- 空中機動力の強化
- 平素から迅速な部隊展開を容易にし得る機動展開訓練の充実



地理的特性及び部隊配置

